

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	ST	学部・学科	国際商学部
学 年	4	派遣国	ドイツ
派遣大学	ゲーテ大学		
期 間	2025 年 9 月 4 日～ 2026 年 7 月 23 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮					
部屋	個室					
設備	*共同＝◎ 部屋にあるもの＝○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約(4 万)円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩)で、約(30)分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	40000 円	30000 円→自炊 10000 円→外食
学用品購入費	0 円	特になし
交通費	0 円	乗り放題チケットが大学から配布
交際費	60000 円	ゲーテ大学のイベント参加や旅行など
その他	円	
合計	100000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ゲーテ大学や寮の周辺の治安はとても良かったです。身の危険を感じることは全く無かったですし、日本と大差ないと言っていいと思います。夜に1人で歩いても問題ないレベルです。

ただ、フランクフルト中央駅周辺、特にカイザー通りというエリアは日本では考えられないくらいに治安が悪く、本気で命の危険を感じる瞬間もありました。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学		
加入期間	(12)ヶ月間	保険料	(約 11 万～14 万円)円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	TK(ドイツの指定保険会社)		
加入期間	(11)ヶ月間	保険料	(約 24 万～28 万円)円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町(フランクフルト)

経済の心臓部でありながら、ドイツ国内のみならず、ヨーロッパ全体の交通の要衝として機能しています。この地理的優位性を活かし、長期休暇や週末を利用してプラハやパリ、デンマークなど周辺諸国へも容易にアクセスすることが可能でした。異なる国々の文化や歴史、人々の価値観を比較検証する機会を多く得られたことは、一つの都市にとどまらない多角的な視点を養うことに繋がりました。

都市の近代的な一面の一方で、ゲーテ大学 の周辺は緑豊かで落ち着いた学生街が広がっています。特に通学時に通る広大な公園は、日本でいうところの代々木公園のようでした。毎日そこを歩いて大学に通っていたことは精神衛生上とても良かったです。

また、JASSO から月額 110,000 円の奨学金 の支援を受けることができ、生活の不安なく学業に専念できる環境が整っていました。充実した学習施設を活用しつつ、現地の学生や世界中から集まる留学生と交流を深める中で、国際都市ならではのオープンで寛容な雰囲気を感じることができました。アジア人も学内のみならず多く生活しており、想像していたより疎外感はなく、またアジア人差別もほとんどありませんでした。

【学業編】

1. 大学情報

大学	ゲーテ大学	所在地	フランクフルト
最寄空港	フランクフルト空港	空港からの距離	
空港⇄大学	(電車→路面電車) *移動手段		
学生数	45000 人	留学生数	7500 人
学部	<ul style="list-style-type: none"> • 法学部 (Faculty 01 Law) • 経済経営学部 (Faculty 02 Economics and Business) • 社会科学部 (Faculty 03 Social Sciences) • 教育科学部 (Faculty 04 Educational Sciences) • 心理学・スポーツ科学部 (Faculty 05) • 神学部 (Faculty 06 Catholic Theology) • 神学部 (Faculty 07 Protestant Theology) • 哲学・歴史学部 (Faculty 08) • 言語学・文化学・芸術学部 (Faculty 09) • 地球科学・地理学部 (Faculty 10) • 数学・コンピュータ科学部 (Faculty 11) • 物理学部 (Faculty 12) • 生化学・化学・薬学部 (Faculty 13) • 生物科学部 (Faculty 14) • 医学部 (Faculty 15) • 歯医学部 (Faculty 16) <p>*留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。</p>		
学部/専攻	経済経営学部 (Faculty 02 Economics and Business) <p>*留学中に所属した学部/専攻を記載してください。</p>		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(3)月

	月	火	水	木	金
1	AkadeMi-A		Financial Risk	AkadeMi-A	Money and Banking
2		Business Cycle	Financial Risk		
3	Business Cycle				
4					

② (4)月～(7)月

	月	火	水	木	金
1					
2					
3			Market Research		
4			Market Research		

3. 履修内容

科目	AkadeMi-A		
履修期間	冬semester	単位数	
授業内容／形態	<p>ドイツ語初級者向けの語学授業。名前は変わっているが、9月に始まった DIA というドイツ語コースと同じ。横浜市立大学という PE のような授業で、友達もできるし楽しい。必須でない授業だが、色んな留学生と交流できる良い機会なので、事前の DIA コースを含めて取ることをおすすめする。</p> <p><授業形態> 教科書に沿って進むが、先生の話を一方向的に聞くのではなく、適宜生徒との対話を織り交ぜた形式のため発言の機会も多い。</p> <p><学生数> 約 20 人</p>		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Business Cycle Theory and Policy		
履修期間	冬semester	単位数	
授業内容／形態	<p>景気循環に関する授業。横浜市立大学で既に習ったことのある経済学の応用のような授業。</p>		

	<p><授業形態> 日本の大学と同じように教授がパワーポイントで説明し、それを聞く。受動的な発言の機会はないが、授業のどのタイミングであっても自発的に質問すれば授業を中断して答えてくれる。</p> <p><学生数> 50 人</p>	
成績	F	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

科目	Financial Risk Management		
履修期間	冬semester	単位数	
授業内容／形態	<p>ChatGPT や Gemini などを使ってリスク指標を計算したり、リスク分析を行ったりする。大学教授が授業にて積極的に AI を用いることを推奨するというのが新鮮。</p> <p><授業形態> 日本の大学と同じように教授がパワーポイントで説明し、それを聞く。受動的な発言の機会はないが、授業のどのタイミングであっても自発的に質問すれば授業を中断して答えてくれる。</p> <p><学生数> 約 60 人</p>		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		

	単位数	
	担当教員	

科目	Money and Banking		
履修期間	冬セメスター	単位数	
授業内容／形態	<p>銀行を中心とした金融機関について学ぶ。</p> <p><授業形態> 日本の大学と同じように教授がパワーポイントで説明し、それを聞く。受動的な発言の機会はないが、授業のどのタイミングであっても自発的に質問すれば授業を中断して答えてくれる。</p> <p><学生数> 約 100 人</p>		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Market Research		
履修期間	夏セメスター	単位数	
授業内容／形態	<p>分析ツール R studio を用いた因果推論の授業。マーケティングやビジネスの文脈において、X という施策を行ったら Y という結果に何が起きるかを学ぶ。R studio は使える前提で授業が進む。</p>		

	<p><授業形態> 日本の大学と同じように教授がパワーポイントで説明し、それを聞く。受動的な発言の機会はないが、授業のどのタイミングであっても自発的に質問すれば授業を中断して答えてくれる。</p> <p><学生数> 50 人</p>	
成績	D	
YCU 振替予定	科目	
	単位数	
	担当教員	

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

2025 年 9 月から 2026 年 7 月までの約 11 ヶ月間、ドイツ連邦共和国のゲーテ大学へ交換留学を行いました。欧州中央銀行を擁する金融都市フランクフルトは、僕の専攻である商学や計量経済学を学ぶ上で非常に刺激的な環境でした。街全体がグローバル経済のハブとして機能し、ヨーロッパの交通の要衝でもあるため、日常的に多様な文化や価値観に触れることができました。秋学期は経済・金融分野を中心に 4 科目を履修しました。「Financial Risk Management」の授業では、大学教授の推奨のもと ChatGPT や Gemini などの生成 AI を積極的に用いてリスク分析を行うという、最先端かつ実践的な学びを経験しました。「Business Cycle Theory and Policy」や「Money and Banking」では日本の大学での知識を応用し、「AkadeMi-A」というドイツ語コースでは他国の留学生と対話を通じた交流を深めることができました。生活面では、日本との文化やインフラの違いから多くの教訓を得ました。特に年末年始は、クリスマス当日からスーパーを含む全ての店舗が閉鎖されるため、事前の食料確保が必須であることを身をもって学びました。また、大晦日には市民が路上で直接花火を打ち上げる過激な風習を体験し、日本とは全く異なるエネルギーと国民性を肌で感じました。さらに、危機管理能力も大きく鍛えられました。ドイツでは入国後 90 日以内にビザ申請が必要ですが、手続きに数ヶ月を要します。私は 10 月中旬に申請したものの、1 月に入ってもビザが届かず、他国への渡航が制限される事態に直面しました。この経験から、閉鎖口座などの事前準備と先手先手の情報収集がいかに重要かを痛感しました。本留学を通じ、専門分野の探求だけでなく、予期せぬトラブルへの対応力や異文化を受容する柔軟性を培うことができました。このフランクフルトで得た多角的な視点は、今後の学業および社会人としての活動に活かしたいと考えています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

ドイツ・ゲーテ大学での 11 ヶ月間の交換留学は、私の今後のキャリアと直近の活動における明確な指針となりました。第一に、金融都市フランクフルトで学んだ計量経済学や、「Financial Risk Management」の授業で生成 AI を活用しリスク分析を行った最先端の経験は、私が将来志望する IT・SaaS 業界での業務に直結する強力な武器になると確信しています。今後は、大学での研究においてこれらのデータ分析手法をさらに深め、テクノロジーを活用して社会課題を解決する人材を目指して自己研鑽に励みます。第二に、多様なバックグラウンドを持つ留学生との交流や、予期せぬトラブルを乗り越えた経験から、異文化適応力とタフな課題解決能力を培うことができました。帰国後はこの経験を活かし、関東学院インターナショナルレジデンスでのレジデント・アシスタント(RA)を務めます。今度は私自身が日本へやってくる留学生をサポートし、することで、留学で得た学びを周囲へ還元していきたいと考えています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学を志す方には、「事前の徹底した情報収集」と「自発的な学習姿勢」が重要であるとお伝えしたいです。まず準備面についてですが、ドイツのように入国後にビザ申請を行う国では、行政手続きに数ヶ月を要することが多々あります。私も申請のタイムラグにより、他国への渡航が制限されるリスクを経験しました。閉鎖口座の開設など、日本にいる間から先手先手で準備を進めることが、現地での心理的余裕に直結します。次に生活・学習面ですが、海外では日本の常識が通用しない場面に数多く遭遇します。例えばドイツでは、クリスマスから年末年始にかけてスーパーを含む全店舗が閉鎖されるなど、想定外の事態が起こります。そうした文化の違いを恐れず、サバイバルを楽しむ柔軟性を持ってください。また、語学学習に関して、私自身、会話の機会には恵まれた一方で文法などのインプット学習が不足しがちになる課題を感じました。日本で基礎固めを徹底し、現地は「失敗を恐れずアウトプットする場」として最大限に活用してください。特に実際にゲーテ大学にこれから留学する方は、ぜひ僕の月次報告書を参考にしてください。日々の生活において役にたつであろう・実際に僕が経験した失敗談などの内容を報告書の末尾に記載していますので。留学は特に行く直前から到着してすぐはとても心が不安定になります。しかし、ゲーテ大学はバディプログラムや学生主催イベントなど留学生を助けてくれる機会が多いのでそれを積極的に利用すれば、割と楽しく過ごせます！楽しんでください！